



令和4年（2022年）5月12日

「バイオ式大型生ごみ処理機」を設置 観光エリアの蓼科地区で稼働開始

立科町では、令和2年6月に「2050 ゼロカーボン」を表明しました。
この取り組みにより、当町蓼科地区においてバイオ式（発酵分解消滅型）大型生
ごみ処理機を導入し、処理の際に発生するCO₂の排出量を大幅に削減します。

1 概要

蓼科地区は標高1500mに位置し、高地の観光地であるため、田畑もなく生
ごみのコンポスト処理が難しいのが実情です。また可燃ごみの処理施設まで片
道約40kmと離れており、ごみの収集運搬コストがかさむ課題がありました。

そこで可燃ごみの減量化等を目的に、飲食を伴う観光事業者の多い蓼科地区
において、大型生ごみ処理機1台を町が整備し、地域と協働のごみ減量化事業を
開始しました。

2 導入処理機

処理機はバイオ式生ごみ処理機で、バイオの力により生ごみが生分解され残
渣が残りません。通常、焼却処理される生ごみを、この処理機で生分解処理する
ことにより、約96%ものCO₂排出を削減可能です。

2 取材案内

本件に関して取材をご希望の社は、企画課企画情報係（電話 0267-88-8403）
にご連絡ください。



立科町マスコットキャラクター
しいなちゃん

関連する資料：メーカーHP「<https://sinkpia-j.co.jp>」
立科町公式ウェブサイト <http://www.town.tateshina.nagano.jp>

立科町 建設環境課 生活環境係
（課長）篠原英男 （担当）田中 真
電話： 0267-88-8411
FAX： 0267-56-2310
E-mail： t-kanky@town.tateshina.nagano.jp